

歯性感染症の全身に及ぼす影響

慢性炎症としての歯周病のコントロール

生田凶南^{1,2}、松本秀規²、岡部俊一²塚本高久²、
津島克正²、福重真佐子²、花田真也²

¹医療法人社団南生会 生田歯科医院、

² 有限責任中間法人 国際歯周内科学研究会



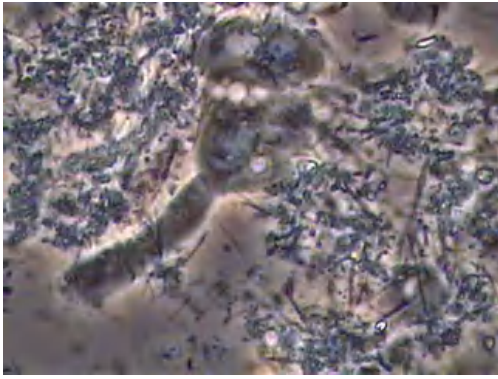
1

歯周病と内科的疾患の関連性
歯周病細菌は次のような内科的疾患の原因になっていることが証明され始めている

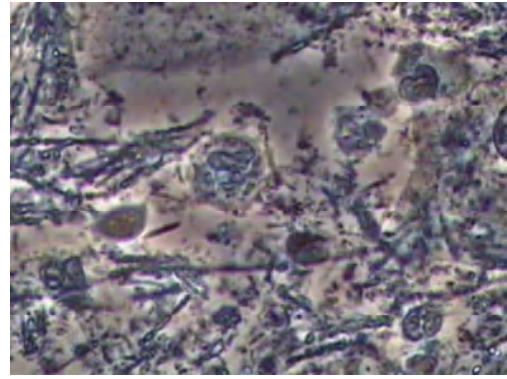
- ① 細菌性心内膜炎
- ② 動脈硬化
- ③ 糖尿病
- ④ バージャー病
- ⑤ 誤嚥性肺炎
- ⑥ 早産
- ⑦ 食道ガン
- ⑧ 胃潰瘍など

2

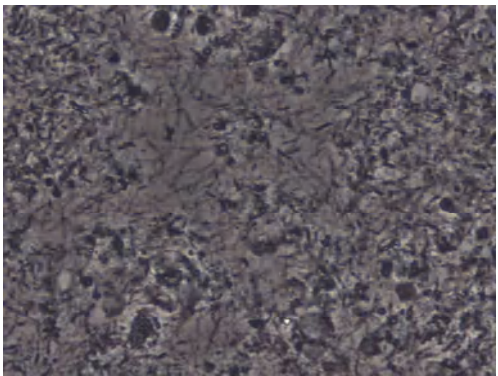
歯周病はこのような微生物の感染により発症する感染症である



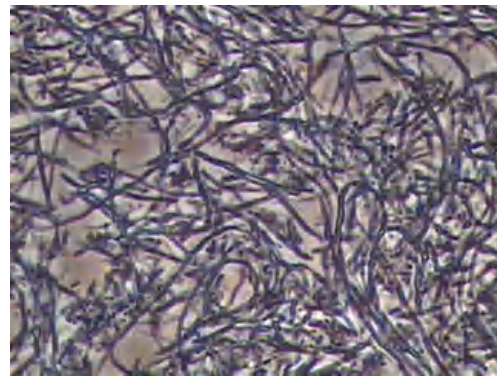
歯肉アメーバ



口腔トリコモナス



トレポネーマ



真菌

3

歯周病の治療方法

◎ 口腔内に感染している歯周病関連菌群を完全に除菌できれば歯周病は治るはずである。

1970年代、そのような考え方が議論されたが完全に除菌できる薬剤が発見できなかった。

そのために、現在、行われている歯周病治療には除菌を行うという概念が欠如した。
治療方法はほとんど、歯磨きやスクレーピングや歯肉の外科手術などの機械的治療が主流である。

4

歯周病治療の現状と問題点

現状の医療保険での歯周病治療ガイドライン

- 歯周病状況の確認(レントゲン診断など)
- 外科的プロービング検査・染め出し検査・歯磨き指導
 - →歯周病細菌・真菌・原虫の血管内伝播
- 観血的歯石除去
 - →歯周病細菌・真菌・原虫の血管内伝播
- 再評価検査
- 評価で問題点がある部分の観血的深部歯石除去
 - →歯周病細菌・真菌・原虫の血管内伝播
- 再々評価検査
- 評価で問題点がある部分の歯周外科治療
 - →歯周病細菌・真菌・原虫の血管内伝播
- 再々再評価検査
- メンテナンス

プロービング検査で出血すると歯周病細菌・真菌・原虫の血管内伝播はおきる

5

現在の歯周病治療の問題点

- ①内科的な除菌療法がなされないまま、外科処置が頻繁に行われ、血管内に大量の細菌や真菌、原虫を押し込んでいる可能性が非常に高い(歯科治療後3日間は献血はできない)
- ②歯科投薬は2~3日しか認められない。2~3日の投薬では口腔内細菌は完全に死滅していない。
- ③歯周病治療において、再感染という概念は、現状ではあまり、認識されていない。
- ④感染症であるのに、どこから感染するのか研究がほとんどない。
- ⑤口腔内の正常微生物叢の研究がない。

6

☆現状の歯周病治療の問題点を解決するために
治療方法の再考：歯周内科治療＋外科的治療

歯周病関連菌群を位相差顕微鏡検査やPCR法などで検査を行い
感受性のある薬剤を使用し除菌を行う。

「アジスロマイシン内服＋AMPHシロップ歯磨き」

- プラーク中のリザーバーである真菌類を減少させる
→ AMPHシロップ歯磨き
- 歯周病嫌気性細菌(*Treponema denticola*を指標菌)を除菌
→アジスロマイシン内服

7

PerioSaver(動画ファイリングシステム) オリンパスと共同開発

- PerioSaver1.0 (2002. 9月発売)→PerioSaver2.0
 - PerioSaverMini(2006. 12. 1発売)
 - 1) 顕微鏡からの細菌画像(動画)をデジタル記録
 - ・治療前、治療中、治療後の経過を2画面の動画で表示
 - ・患者さんの治療経過を一元管理
 - 2) 診療フローに沿った簡単操作
 - ・診療中の治療行為を妨げない
 - 3) 接続できる顕微鏡
 - ・PerioMicro40
 - ・PerioMicro30
- (顕微鏡は別販売)



位相差顕微鏡なしでは歯周内科は行うべきではない

- アジスロマイシンで除菌できると言われている
歯周病嫌気性菌

☆*Porphyromonas gingivalis*

☆*Prevoterlla intermedia*

☆*Treponema denticola*

☆*Actinobacillus actinomycetemcomitans*

-

本治療方法により90%の患者さんで理想的な
微生物叢が数日間で獲得できるようになった。

9

○歯周内科治療を行い、歯周病関連菌群5菌種と
真菌が除菌されることが確認されている。

○さらにその後、メンテナンスを定期的に行い再
感染を防止することにより歯周病関連菌群5菌種と
真菌の除菌状態は維持できることが示されている。

2006年第54回日本化学療法学会 津島克正発表より引用

歯周内科症例提示



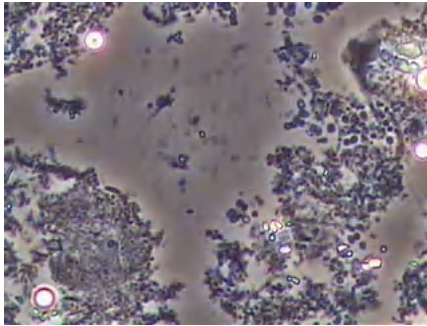
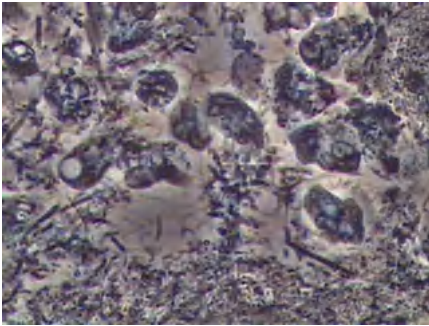
2003・2・27



2003・3・7



2003. 4. 11



このように微生物叢が改善されてから、外科的検査や除石を行うと人体に安全である

11

症例 免疫抑制剤投与中



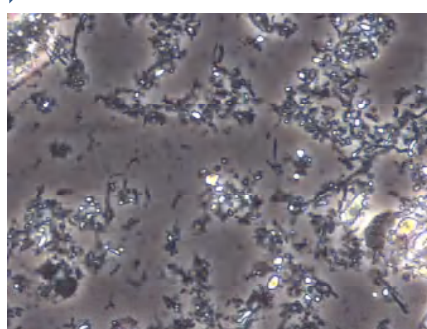
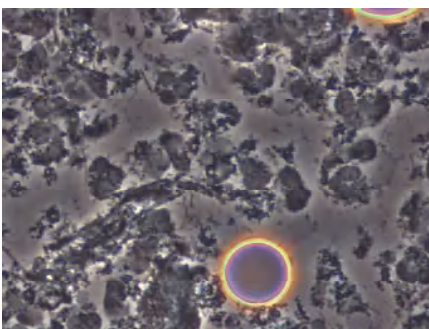
2007. 5. 22



2007. 5. 25



2007. 6. 7



このように微生物叢が改善されてから、外科的検査や除石を行うと人体に安全である

12